

ベニランド(7:00)

八木山橋下まで一気に飛ばす。ここで一息いれて八木山沢(仮称)へ。50mにも及ぶ側壁部分を刻んで合流する支沢だけに、滝がかかっていそうだ。

まず手はじめは1.5mの滝。中央部分をシャワーで突破する。水にぬれることさえきらわねばどうということもない。その上の1.5mはチムニー状。足でつっぱり、腰で支えて登る。その上の2mにはホールドがない。幸い右岸に流木がかかっているの、それを利用して登る。小滝ばかりだが、連続しているので結構楽しい。最後の2mはシャワーで直登する。沢の切れ込みはまだ深い、もう滝はかからない。6時45分二俣。ここで側壁も切れた。左俣にルートをとる。ここからは八木山ベニランドの構内にくりこまれているらしく、鉄条網の仕切りがあるが、ここまできて引き返すわけにもいかず、鉄条網の破れ目から中に入り込む。

じきに小さな砂防ダム。このあたりからブッシュがひどくなった。しかしそれも2つ目の砂防ダムまでで、その先は刈り払いがしてあって歩きやすくなった。ここで沢の水もかれる。源はベニランドからの排水であって、沢の両側の2本のU字溝から流れ込んできていた。すぐにベニランドに出て、今日の沢登りを終える。
(記・西和文)

磐梯山スキー登山

1983年2月11～13日

L西和文・和泉功

2月11日 雪。福島(7:00)①猪苗代スキー場(10:00, 11:00)→リフト終点(11:40)→沼の平(13:00)→幕営地(14:15)

日帰り予定の橋内君の車に便乗して猪苗代スキー場まで行く。連休のためスキー客も多く、多少のリフト待ちをしいられる。

スキー場上部からいよいよ赤壇山の登りにかかる。途中天狗の庭付近は風が強いせいか、岩が露出していた。赤壇山は山腹をトラバースして沼の平へと急ぐ。沼の平までは、所々指導標も雪の上に出ており、コース的にもわかりづらい所は

ない。沼の平に出ると、櫛ヶ峰と磐梯山東壁が目の前にせまってくる。

沼の平を横切り、いよいよ磐梯山頂めざして急登にかかる。雪がベッタリついていて、ジグザグをきりながら気持よく登ってゆける。「今日は弘法清水まで行ってテントを張ろう。」ということで頑張って登る。ところがである。最初の急坂もあと少しで終わろうとする所で、シールトラブルがおき、思わぬ時間を費してしまった。しかたなく最初の平坦地でテントを張る。

2月12日 雪一時晴。 幕営地(7:55)——弘法清水(8:30)——磐梯山(9:30)——弘法清水(9:40)——中ノ湯(11:40)——ゴールドライン(14:15)——幕営(15:15)

一晩中雪が降り続いた。昨日トラブルを起こしたシールは、テープを使って固定をしよう。初歩的なミスをおかしてしまった。

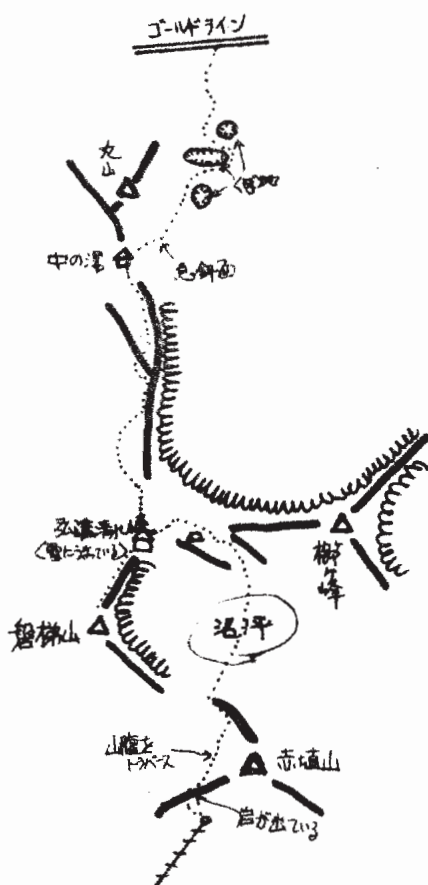
7時55分出発。弘法清水にスキーをデポし、山頂へ向かう。腰までのラッセルとなった。山頂から降りる頃になり、ようやく晴れ間が出てきた。

弘法清水で再びスキーをつけて中ノ湯へ向かう。少し下ったところでシールをはずし、火口壁の左側の樹林帯を滑る。はじめてのコースなので、尾根からあまりはなれないようにして下ったが、降りる尾根さえまちがわなければ、樹林帯の中を角度をつけて下った方が、中ノ湯へは楽につけそうだ。尾根上は幅もせまく、雪ビもはり出すので注意。

シールが不調なこともあり、中ノ湯から下ることにする。雪が深く、よほどの急斜面でもとまってしまう。トレースがあったので、それについていったら途中から変な方向にいつてしまう。ちょっと方向感覚がくるわされてしまっていて、気づいた時には丸山を大きく捲く形で左側のくぼ地に入り込んでしまっていた。この頃から雪も降り出す。ここまでくればと、地図を確かめ、一気にゴールドラインをめざす。

14時15分、ゴールドラインに出る。雪が深いうえに重く、ぜんぜん滑らない。1時間程歩いてからテントを設営する。

2月13日 雪。幕営地(8:00)——料金所(8:40)——檜原湖(9:10, 10:



00)——猪苗代駅(11:00, 12:21)——福島(13:55)

相変わらず雪が降り続けている。8時に歩きはじめる。早朝なので雪が軽い。昨日1時間かかって歩いた距離のほぼ倍の距離を、40分で降りてしまう。料金所を過ぎて少し行くと、道路は除雪されていた。そこから檜原湖のバス停まで、30分で行ってしまった。(記・和泉 功)

裏磐梯・丸山スキー行

1983年2月28日

和泉 功・佐藤康成

福島(7:00)——④裏磐梯スキー場(9:20, 9:40)——リフト終点(9:50)
——銅沼(10:00)——中ノ湯(10:45)——丸山(11:00)——銅沼(12:05)
)——スキー場(12:20, 12:40)——⑤福島(15:20)

福島から裏磐梯スキー場では、磐梯熱海から母成グリーンラインを利用すれば約

2時間半で行ける。母成グリーンラインは有料なのだが、冬期間は無料となり、除雪も行なわれている。裏磐梯スキー場はリフト2基の小さなスキー場で、猪苗代のような混雑はない。

私達は、ゲレンデのなかほどにある駐車場に車を置き、リフトを利用してスキー場上部の平坦地に出る。磐梯山の火口壁が目の前にせまってくる。銅沼までは多少の起伏があるが、10分程で行ける。銅沼は雪にうもれているが、案内

板がその位置を教えてくれる。中ノ湯へは、ここから右手前方の沢状のくぼ地を登る。すぐに台地となり、やや左に向かって進む。右手はくぼ地があり、地形が複雑なので入り込まないようにしたい。

林をぬけると広々とした雪原に出る。太陽が直接照りつけてくる。火口壁を左に見ながら進むと、雪原が終わるころ前方に沢筋が見えてくる。そこを登り樹林の中に入る。雪原を右に行きすぎくぼ地に

